平成 29 年 9 月 1 日発行
秋田県ボランティア・ＮＰＯ活動
ニュース県南版

県南のＮＰＯを情報でつなぐ、ささえる。

Not And New South Akita Npo

ハンサン

9
September
2017
Vol.125

◆表紙の紹介◆　秋田の海で「地引網」を体験！交流会

８月５日、東日本大震災により県南地域に避難されている方々を応援するために、湯沢市の市民活動団体「ゆざわフレンズネット」が「おやじの会」と共同企画運営による交流会を、男鹿市の五里合漁港にて開催しました。地引網体験の後には、県南地域で避難生活をされた後に福島県へ帰還された方による「福島のいま」についての講演・情報交換交流会が行われました。

◆目　　次◆

Ｐ２　わくわくげんき　　NPO 法人こまちハート･オブ･ゴールド
Ｐ３　わくわくげんき番外編　　インターンシップを終えて
Ｐ４　助成金・イベント情報
Ｐ５　募集情報・あきたスギッチファンド事業報告会
Ｐ６　市民活動お役立ち情報　NPO 法人のメリット・デメリットを知りましょう

あんべいいな秋田県

高校生ライターが聴きます！

わくわくげんき Vol.5

総合型地域スポーツクラブとして雄勝スポーツセンター（旧秋ノ宮小学校）を管理、運営している「NPO 法人こまちハート･オブ･ゴールド」の菅さんに活動について、お聴きしました。

左から菅善徳さん、菅原寛人さん、諸越知美さん、佐藤理湖さん

こまちハート･オブ･ゴールドは、平成 17 年に設立し、平成 22 年に法人化。法人化した理由について、クラブマネージャーの菅さんは「法人化は皆さんの信用を得るための手段でもあります。NPO 法人は非営利団体ですが、活動資金はとても大切です。法人化することで資金を集めやすくなるのです。」と話します。その他にもＮＰＯ法人について詳しく説明していただき、とても勉強になった。また、活動について「スポーツというと女性や高齢者は敬遠しがち。まずは楽しんでもらうために、スポーツ以外にも川での魚釣りや、「まちあるき」なども行っています。それが高齢者の方のいきがいに繋がれば良いなと思っています。」と話されていた。（諸越知美）

こまちハート･オブ･ゴールドはスポーツを通じた活動で幅広い世代を支援しており、企画力と若さ溢れる原動力で雄勝地域の活性化に一役買っている。活動拠点は廃校になった小学校校舎を利用し、スポーツ少年団の活動場所として貸出を行っている。最近ではハンドメイドサークルなどスポーツ以外からのアプローチを見せるなど雄勝地域の重要拠点になっている。対応して頂いた菅さんは「スポーツという言葉から高齢者の方々から避けられがちではあるが、スポーツ以外の面からも徐々にサポートしていける体制を整えていきたい」と熱く語ってくれた。（菅原寛人）

こまちハート･オブ･ゴールドは湯沢市のたくさんの緑の自然に囲まれた旧雄勝町で地域を活性化されるため、さまざまなスポーツ活動やイベントを開催している。先月7月 29 日には秋ノ宮温泉郷周辺のフィールドワークとピザ焼き体験を行った。地域の子供たち、高齢者、県外の方たちが参加した。今は、安全や費用の関係でこのような活動を行っている団体などは少なく、子供たちもあまり自然にふれあう機会が少なくなってきていてこの活動はすごく盛り上がったと話す。これからの活動目標の質問には、人口減少が進む中でも、多くの活動をし、幅広い年代の方でも参加できるよう「多世代交流」でふれあいを高めることを目指し全国に魅力を宣伝し、地域住民が誇りと自信のもてる地域社会を目指しているそうだ。（佐藤理湖）

NPO 法人こまちハート･オブ･ゴールド
湯沢市秋ノ宮字中島 365 番地
TEL＆FAX：0183-55-2277
大切にしていること：「ワクワク感」を共有

▲クラブマネジャー
菅（すが）　善徳（よしのり）さん

イベントチラシの一部

取材して感じたこと

今回、幅広い活動を通じた様々な世代との交流や、スポーツ面での若い世代の育成などが多く目立ちました。また、対応していただいた事務局の菅さんの多様な経歴が活動に生き、今の企画力や発想力を作り上げていました。自分も今後生活していく上で発想力を鍛え、仕事に生かしてゆきたいと思いました。（菅原寛人）

私は、今回インタビューをしてみて職員の菅さんは、とても熱心な方で何事もあきらめず地道にこつこつとたくさんの活動を行っているところが魅力的だと思いました。これからもたくさんの活動をし、湯沢市雄勝町の良さを地域内外の方に知ってもらえるといいなと思いました。（佐藤理湖）

私は湯沢市民で、前から「こまちハート･オブ･ゴールド」という名前は知っていましたが、活動については全くと言っていいほど知りませんでした。この素晴らしい活動を是非いろいろな人に知ってもらいたいと思いました。（諸越知美）

高校生ライターが聴きます！

わくわくげんき 番外編

横手高校定時制２年佐藤碧さんが、秋田県南 NPO センターにおいて ３ 日間のインターシップで、市民活動について学んでくれました。市民活動について、感じたことを聴きました。

横手高校定時制２年佐藤碧さん

インターンシップ体験を終えて

８月２日から県南ＮＰＯセンターにて３日間のインターンシップを体験しました。学校では学ぶことのできない“社会”について、施設見学を交えながら深く学ぶことができました。

始めに、このセンターで取り組んでいる各事業の説明がありました。男女共同参画、協働連携、共助組織など初めて聴く言葉も多々ありましたが、どれも社会が直面する課題を解決するための事業です。他人事だと一蹴せず、自らも考えながら聴くよう心がけました。その中で気づいたのは、「地域に密着している」という点がどの事業にも共通していることです。市民の目線でその地域のことを考え、市民同士で手を取り合うことが、事業が成功へ向かうひとつの鍵なのだと思いました。また、センターと連携している３つの施設を訪問しました。センターの外でも地域の課題解決や発展に向けて奔走している方々の存在を知り、協働の力の大きさ、そして意味を改めて感じることができました。地域を思う人々の思いに触れることができて、とても嬉しかったです。

私は今まで地域について考えることはありませんでした。しかし実際は、地域の課題にいち早く気づき、行動を起こしている存在がいて、その恩恵を私たちは受けているのだと気づきました。今回のインターンシップで地域、そしてその未来のために努力し続けている方々との出会いで、私自身大きく成長できたと思います。このインターンシップでの体験は私の宝物です。

（佐藤　碧）

共助組織について説明を受ける佐藤碧さん

被災者支援事業「地引網」体験に参加して

インターンシップ最終日の８月５日、被災者支援事業のひとつである「地引き網体験」に参加しました。子供から大人まで幅広い年齢の 60 人の参加者と秋田の広大な海と透き通るような青空の下、本当に楽しい体験をさせてもらいました。

「地引き網」は初体験で、どういったものかイメージできなかったのですが、思った以上にハードなものでした。まるで海と綱引きをしているようで、参加者全員の力を全部出し尽くしてやっと引き上げることができました。参加者が一致団結して取り組む姿は感慨深いものがありました。

参加者と地引網を体験

参加者に取材の様子

地引網終了後は昼食を兼ねた参加者の交流会がありました。その中で震災後に横手市へ避難し、福島へ戻られたお二人から福島の現状についてお話がありました。市町村によって違うようですが除染作業はほとんど終わり、震災前の福島に戻りつつあるようです。さて、横手市に避難した経験はどのように生かされているのかをお二人に聞いてみました。するとどちらも避難先の土地で触れた暖かさを、地元に戻って継承しているようでした。それを聴いたとき私は、人のつながりの強さを身に染みて感じました。誰かに助けてもらった経験はさらに人の心に残りやすく、自分の原動力にもなるようです。自分が誰かのためを思ってした行動が誰かの心に生き続けるってなんて嬉しいことでしょう。ＮＰＯの存在意義に触れられたようなひと時でした。（佐藤　碧）

❖助成金・イベント情報❖

トヨタ財団 2017年度国内助成プログラム

トヨタ財団では、「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ―地域に開かれた仕事づくりを通じて―」をテーマに公募を実施。「しらべる助成」と「そだてる助成」を設定。

応募期間：平成29年9月1日(金)～9月29日(金)
助成総額：1億円（しらべる助成・そだてる助成合計）
https://www.toyotafound.or.jp/community/2017/
問合せ先：公益財団法人トヨタ財団
国内助成プログラム担当
TEL：03-3344-1701

第16回南部ハーモニープラザまつり

「今日の出会いを明日のちからへ」～発信しよう、私たちの活動を～がテーマ。市民団体がお互いの活動内容をPRしながら交流を深め、性別に関わりなくイキイキと過ごせる、男女共同参画社会づくりを目指して開催。

日程：平成29年9月9日(土)10:00～14:30
場所：秋田県南部男女共同参画センター
主催：南部ハーモニープラザまつり実行委員会
問合せ先：秋田県南部男女共同参画センター
TEL：0182-33-7018
FAX：0182-33-7038

花王・みんなの森づくり

国内で身近な緑を守り、育てる活動（森づくり活動）に取り組んでいる団体と、身近な緑を活用し、次世代に緑との触れ合いの機会を創出する活動（環境教育活動）に取り組んでいる団体を対象とした助成金。

応募締切：平成29年10月14日(土)
助成金額：1・2年目各50万円、3年目25万円上限
詳細：https://urbangreen.or.jp/
問合せ先：公益財団法人都市緑化機構
TEL：03-5216-7191
FAX：03-5216-7195

記念講演「職業父親」

NPO法人サポートセンター・ビーイングが団体設立15周年記念事業として、記念講演を開催。

日程：平成29年9月8日（金）　14：00～
会場：湯沢ロイヤルホテル
講師：高橋　和起さん
問合せ先：NPO法人サポートセンター・ビーイング
TEL＆FAX：0183-52-3596
携帯：090-4315-1110　佐藤

コミュニティスポーツ推進助成プログラム

コミュニティスポーツを暮らしの中に位置づけ、地域社会における健康課題の解決や社会参加に困難を抱える人たちの健やかな生活の増進に取り組む活動を応援。

応募期間：平成29年10月2日(月)～10月16日(月)
助成総額：1,400万円を予定
詳細：http://www.skzaidan.or.jp/
問合せ先：公益財団法人住友生命健康財団　事務局
TEL：03-5925-8660
FAX：03-3352-2021

第9回横手語りのまつり ～ふるさとの伝説散歩 Vol.3～

横手ふるさと語りの会「とっぴんぱらりのプー」が、第1部伝説散歩、第2部佐藤朋子さんを偲んで、第3部昔語の3部構成で語り手たちにより、ふるさとを語ります。

日程：平成29年9月17日（日）開場　12：30
会場：横手ふれあいセンター「かまくら館」ホール
入場料：無料
問合せ先：横手ふるさと語りの会
「とっぴんぱらりのプー」
080-5225-5903　菅原

2017年度住民参加型福祉活動資金助成

地域における高齢者・障害者・子ども等に関する複合的な生活課題に、地域住民が主体となって、包括的な支援を行う活動に必要な資金を助成します。

募集期間：平成29年9月1日(金)～10月20日(金)
助成金額：総額600万円予定
http://www.sjnkwf.org/jyosei/juminsankagata.html
問合せ先：公益財団法人
損保ジャパン日本興亜福祉財団
TEL：03-3349-9570
FAX：03-5322-5257

活動資金調達をお考えのNPO法人・市民活動団体向けの助成金情報です。
申請書の書き方等の相談を受け付けております。
ご相談（0182-33-7002）ください。
休館日（木曜日）

❖募集情報❖

横手市ものづくり アイデイアコンテスト 2017

地域の課題を解決し、市民の生活を豊かにするようなアイデイアを募集。受賞アイデイアは市内の企業とマッチングさせて新たな商品開発につなげます。

募集締切：平成 29 年 9 月 29 日（金）
表彰:最優秀賞 1 名副賞 5 万円、優秀賞 3 名程度副賞 3 万円
問合せ先：横手市商工観光部商工労働課
TEL：0182-32-2115
FAX：0182-32-4021

C・Net2017 若者あきた地域ネットワーク 実行委員大募集

若者と、地域で活動している人たちとの出会いの場。自分たちの住む地域のことを話し合い、地域への思いや、できることをつなげましょう。

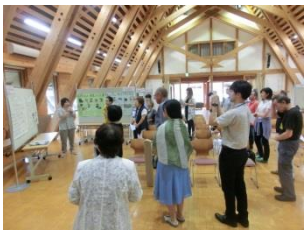
実行委員資格：高校生、大学生、40 歳位までの若者
主催：秋田県（あきた未来創造部　次世代・女性活躍支援課）
問合せ先：特定非営利活動法人
あきたパートナーシップ
TEL：018-829-5801
FAX：018-829-5803

あきたスギッチファンド第 14 回･第 15 回事業報告会が開催されました。

認定 NPO 法人あきたスギッチファンドは、県民、企業、行政など社会全体から寄付や資金を集めて、地域課題に取り組むＮＰＯやボランティア団体、地縁組織等に活動資金を助成します。あきたスギッチファンドの助成には「本ファンド」「冠ファンド」「分野指定ファンド」の 3 つのファンドがあります。募集は年 2 回程度、5～6 月頃と、10～11 月頃に募集します。

認定 NPO 法人あきたスギッチファンドによる第 14 回・第 15 回助成の事業報告会が 7 月 30 日、遊学舎において開催されました。
第 14 回助成事業（平成 27 年度第 2 回助成 7 団体）では、私設図書館 本庫 HonCo による事業「世代を越えて老いを考える～本を通して～」、第 15 回助成事業（平成 28 年度第 1 回助成 9 団体）では、NPO 法人秋田県音楽普及協会による事業「アマチュア音楽愛好者たちの祭典　第 2 回チャレンジコンサート」が、事例発表として報告されました。また、各助成団体からは事業報告として、パネル展示と現在の事業状況も含めた報告がありました。最後に参加団体による交流会もあり、意見交換や事業実施の上での悩み・よろこび等を共有しました。
参加団体からは「資金の支援のみならず、ファンド事業であることの信用が事業実施のプラスとなった」ことや「事業継続には困難があるが、道はひらけるものだ！」との声がありました。
多くの方からの寄付が、NPO 等を通じ、地域の元気や課題解決につながっていることを実感できる一日でした。本年も第2回目の募集が 10 月に始まります。備品購入費、食糧費にも使用できるファンドです。
（今拓也）

アマチュア音楽愛好者による
演奏披露ありの事例発表


パネル展示による事業報告
各ブースで助成団体による説明があった

THEME

NPO 法人のメリット・デメリットを知りましょう

市民活動を始めた団体から、NPO 法人格の取得をすればよいのか、別の法人格にした方が良いのか、任意団体のままが良いのかを相談されることがあります。そこで、今回は NPO 法人のメリット・デメリットについてどのようなものがあるのかを知ってみましょう。（熊谷淳子）

◆メリット

○社会的な信用を得やすくなる

法人設立により、各種取引における信用が高まる。政府・自治体の認証を受けた NPO 法人ということで、組織や活動内容においても信用を得やすくなる。

○資産の管理や事業を受託できる

団体名義で様々な契約が可能となるため、事務所を借りたり、団体名で物品を購入したりすることが可能。また、団体名義で銀行口座を持つことも可能。

○資産を持つことができる

車両、事業用不動産、会の目的に沿った資産を持つことが可能。代表者や理事が変わっても、団体の資産としてそのまま団体に残すことができる。

○重要な事業に参加する機会が広がる

国や自治体が、福祉や環境、まちづくり、青少年育成、子育てなどの分野の公共事業を NPO 法人に委託、または協働するケースが多くなっている。

○税制的に優遇される

税率(法人税)が２パターンと簡素化される。収益事業(限定 34 業種)をしない団体にいたっては、申請することによって法人税がかからない。

○職員を雇用し、安定的な組織運営の第一歩を築ける

NPO 法人は、法人として責任を負い、職員(例えば事務を担う職員、介護活動を行う介護士、各種教室で指導にあたる講師など)を雇い、厚生年金や健康保険、雇用保険に加入することができる。ボランティアの方だけに頼らない組織的な活動をしやすくなるのが特徴。

◆デメリット

○素早い意思決定ができないこともある

事業内容の変更によっては、定款の変更が必要になる場合もある。その場合は総会で決議をし、所轄庁の認証を得る手続が必要。

○厳正な事務処理や情報開示が必要

経理は、正規の簿記の原則に基づいて処理を行う必要がある。毎年、事業報告書や活動計算書などの資料を所轄庁へ届け出る。それらの資料は情報公開が義務づけられる。市民に閲覧されることになる。

○法人として税務申告義務がある

法人として税務申告義務が生ずる。法人住民税(約７～８万円)はすべての法人にかかってくるが、収益事業をしない団体は免除されることがある。

編集スタッフのつぶやき　VOL.5

情報誌編集担当
熊谷淳子

26 日に大仙市で開かれた第 91 回全国花火競技大会。マンパワーのすごさを感じました。24 日からの大雨で、花火会場の雄物川河川敷付近の水位は前日の 25 日午前にはピークになり、川からの水が観客席に流れ込んで開催が危ぶまれたが、大仙市職員や消防団員や建設業など関係者が復旧作業に当たり、無事に開催されました。毎年この大会を楽しみにしている方々は、いつもの年よりも楽しんだと思います。私は残念ながら、ちょっと遠くでの観覧になりましたが、星形やホタルのように飛び回る花火に花火師のすごさに感激した一夜でした。

秋田県ボランティア・NPO 活動ニュース県南版
ハンサン　2017 年 9 月 1 日発行
9 月号　VOL.125
発行：秋田県あきた未来創造部地域の元気創造課
〒010-8570　秋田市山王四丁目 1-1　TEL.018-860-1245
編集：特定非営利活動法人秋田県南 NPO センター
（南部市民活動サポートセンター）
〒013-0046　横手市神明町 1-9
南部市民活動サポートセンター
【相談受付】月・火・水・金 9：00～18：00　土 9：00～17：00
【休館日】木曜日・年末年始（12/29～1/3）
〒013-0046　横手市神明町 1-9
TEL.0182-33-7002　FAX.0182-33-7038
E-mail：ssc7002@luck.ocn.ne.jp
http://www.kennannpo.org/project/supportcenter.html